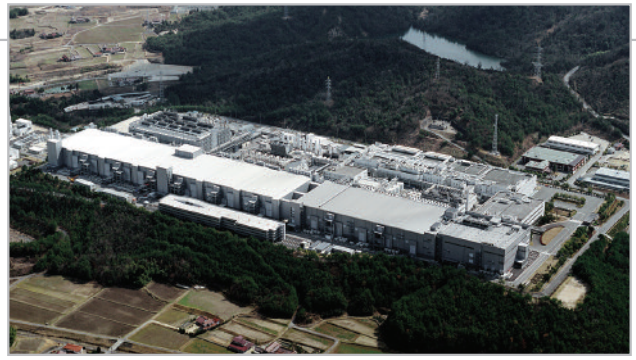


エルピーダメモリ株式会社 **ELPIDA**



経営に求められる正確で迅速な判断をするためには、顔を見て相手がどう感じているのかを把握する、的確なデータを共有しながら会議を進める、それが重要なのです。

TANDBERGの導入範囲

エルピーダメモリ株式会社 本社(東京都・八重洲)／開発センター(神奈川県相模原市)／関西デザインセンター(大阪府大阪市)／広島エルピーダメモリ株式会社・広島開発センター(広島県東広島市)

導入ソリューション

TANDBERG Portable 6000 MXP
TANDBERG Set-top 990 MXP
社内IP 網ならびにISDN回線を使用

TANDBERGの選択理由

- クリアな音声と映像および安定性
- ビデオ会議端末本体で多地点接続が可能
- 音声・映像とともにパソコン上のデータを共有できる機能
- 2つのディスプレイへ接続し、映像と資料を同時表示できる機能

導入効果

「資料(データ)共有のみならず、参加者全員の反応を確認しつつ会議ができるため、電子メールや電話などと比べ、正確性の高い判断が可能になることです。導入後は、度重なる遠隔地への出張の回数も減り、効果的に時間を使うことが可能になりました。また、社内4拠点を接続したタスク・フォース・ミーティングも毎日実施されるようになり、より円滑な情報共有、より迅速な意思決定サイクルが実現されました」



エルピーダメモリ株式会社
代表取締役社長兼CEO
坂本 幸雄氏



エルピーダメモリ株式会社
A&M Office
ITプランニング&インフラGr.
エグゼクティブ
プロフェッショナル
上床 晋二氏



エルピーダメモリ株式会社
A&M Office
ITプランニング&インフラGr.
プロフェッショナル
上床 晋二氏

エルピーダメモリ株式会社(以下、エルピーダ)は、1999年12月に設立された国内唯一のDRAM専門半導体メーカーです。年々国際競争が激化するDRAM業界において国内メーカーが次々と市場からの撤退を表明する中、同社は2002年に代表取締役社長兼CEOに就任した坂本幸雄氏のリーダーシップの下、2004年には黒字に転換。さらには東京証券取引所市場第一部に株式上場し、現在では世界シェアトップの座を目指し躍進しています。

エルピーダが初めてビデオ会議システムを導入したのは2002年。まずは本社(東京)、広島と神奈川にある開発センターの3拠点に導入しました。導入に踏み切った背景には、移動費用の削減もありましたが、最大の理由は時間の効率的活用のためでした。

ビデオ会議を導入する前は、経営陣が複数名、毎週のように東京や神奈川から広島に出張していました。広島の開発センター(2003年より広島エルピーダメモリ株式会社・広島開発センター)は、広島空港から車で30分以上の場所にあるため、移動だけに1日費やす状態でした。毎週、しかも数時間の会議のために丸1日をかけての移動は効率的ではなく、また、複数部署を管理するような経営陣にとっては特に負荷がかかっていたのです。(鶴岡氏)

2005年、当時使用していたビデオ会議システムの画像をより鮮明にしたいという要望や、各拠点間での資料の共有ができないなどの理由から、エルピーダでは、多くの機種を検討し、経営陣の使用頻度が多い3拠点にTANDBERGのビデオ会議システムを新規で導入しました。そして、2006年には大阪にあるデザインセンターにもTANDBERGのビデオ会議システムを

追加導入しました。

TANDBERGを選んだ理由は、安定性に優れ、クリアな音声再生ができること、2つのモニターに分割された環境で1画面はミーティング状況、もう1画面は写真や資料などを表示できることでした。正確な資料を元に話し合うためには、TANDBERG製品の独自機能である「Duo Video」という資料共有ができる機能は必須でした。また、社内のIPでの接続のみならず、社外とのISDNでの接続にも対応する必要があったこと、そして、費用的な負担をかけずにビデオ会議システム本体で多拠点の接続ができることなども含め、総合的に判断しました。(上床氏)

企業経営において意思決定のスピードが重要だと言われますが、速度のみならず、高い正確性が求められます。そのためには、的確なデータを共有しながら、相手がどのように感じているのか、相手の表情を見ながら判断していく必要があります。TANDBERGのビデオ会議システムは、そのために必要不可欠なツールです。(坂本氏)

現在は、週に1回の執行役員会、そしてCEOと執行役員が参加するタスク・フォース・ミーティングのほか、一般社員間でのミーティングなど、以前より頻繁にビデオ会議が利用されています。TANDBERGのビデオ会議を導入したことにより、従来に比べ、ビデオ会議を使用する機会が増え時間の効率的な利用が可能になり、さらに、社内の最重要決定事項を各拠点間で話し合う機会が増えました。大阪にあるデザインセンターと広島エルピーダ(生産拠点)との連携も、より円滑になりました。(鶴岡氏)



TANDBERG Set-top 990 MXP



TANDBERG Portable 6000 MXP

当社のミーティングは短時間で終了することを重要視しており、個人がプレゼンする資料の枚数が制限されています。そのため出席者は会議に出る前に頭の中を整理して、効率良く話を進めていかなければいけません。そのためには、ビデオ会議システムも安定性に富んでいて、クリアな表示であることが望まれます。(鶴岡氏)

現在、ビデオ会議は国内の4拠点で頻繁に使用されているだけでなく、台湾にあるDRAM生産合弁会社レックスチップ、米国のエルピーダメモリUSA、国内外の顧客企業などとの間でも使用されています。国内の他の拠点へも順次ビデオ会議システムの導入を進めている最中ですが、今後、海外とのコミュニケーションが増えていくにつれ、ビデオ会議システムの使用頻度も増えていくと思います。

海外では、ビデオ会議システムを使用し、環境対策(CO₂の削減)、およびコンプライアンス対策をしている大手の企業も多いと聞いています。環境、コンプライアンスへの配慮が求められる中、当社でも両側面からビデオ会議システムを積極的に活用していきたいと考えています。

※ ※ ※

今回のTANDBERG製品導入に際しては、日商エレクトロニクス株式会社、エヌ・ティ・ティアドバンステクノロジー株式会社(NTT AT)に多大なるご協力をいただきました。全国に広がるエルピーダの各拠点に対し、日商エレクトロニクスとNTT AT両社協力の下、オンサイト保守も含めた迅速なサポートを提供していることも、ビデオ会議システムの円滑な運用につながっています。

